

1 令和5年度(2023年度)以降の養殖事業の取り組み

本市では、魚類の養殖を実現するため、令和3年度からキングサーモンの完全養殖技術研究に着手、令和4年度からは国の地方大学・地域産業創生交付金事業を活用し、魚病対策や飼料開発など事業化研究や海面養殖研究も加え、現在、着実に養殖事業を進めております。

研究内容につきましては、令和4年度第1回協議会でご報告したとおり、キングサーモンの人工魚と天然魚を飼育しながら、生育に関する知見を深め、精子等の遺伝資源の保存やDNA解析のほか、採卵・人工授精、孵化試験などに取り組むとともに、SPF種苗作製や環境負荷低減に貢献する飼料の開発、海洋環境のモニタリングなどに取り組んでおります。

また、海面養殖技術研究では、函館大森海域に浮沈式生け簀を7月に設置し、暴風や潮流に耐えられるかの調査を行い、11月には養殖種苗のサクラマスを生け簀に投入し、海面養殖試験を開始したところです。

今後につきましても、完全養殖技術研究のベースとなる試験飼育を継続しながら、人工授精や孵化など種苗生産技術の研究に取り組むほか、高品質なサーモンの養殖と経営コストの抑制を両立できる飼料の開発や安定した養殖経営を維持するための魚病対策などの事業化研究に取り組めます。

海面養殖では、引き続きサクラマスによる養殖試験に取り組み、令和5年6月にはサクラマスの水揚げを行う予定です。

また、コンブ養殖については、本市の基幹漁業で母藻の確保など喫緊の課題をクリアするため、令和4年度から交付金事業に盛り込み、気候変動に適用する養殖システムの開発による持続可能な漁業とするコンブの完全養殖技術研究を開始したところであり、引き続き研究に取り組んでいきます。

各種研究の取り組みにつきましては、市内漁業協同組合をはじめ、北海道大学大学院水産科学研究院や函館国際水産・海洋都市推進機構、市内の学術研究機関などと連携しながら進めてまいります。

そのほかには、新たにウニ畜養試験を開始し、生育不良のウニを畜養（陸上・海中）することにより、通年出荷が可能となるか試験調査に取り組んでいきます。